

磐城大衆新聞
毎月二回 一日、十五日發行
定價 一月十錢
廣告 一行五十錢
發行所 磐城大衆新聞社
編輯部 長谷川兵衛
印刷部 福島縣町平字堂ノ前二十番地

縣議政戰の展望 (中)

▲民政黨部會

高橋 靜堂

多年政敵政友の絶對地盤であつたのは野崎君であつた。以來何れも、湯本の某旗亭に政戦を...

是れに反して民政黨部會は何々といひ、野崎と萩原とは恰自然なる膨脹とも謂ひ得る...

分裂の一大原因、夫れは野崎だ、所が豈に圖らん、野崎君が君對萩原君の私的抗争の結果...

此の幹事長の榮職を導き與へ 萩原君の姿が遂に見出す事が出来ぬ醜体を演じたのだ。

一方の旗頭野崎滿藏君が世人周知の如く惡意傳されたが堅忍壽三郎君等の出馬評もあるが...

現縣議若松美三君は勿論再起するは當然であるが、例の問題所謂自動車路線事件で草野三郎御大との間に取除き難き溝...

石川亭 電話四三番 平町の花柳界を背景とし最も繁華なる地を占めて居る田町の石川亭は、秋より淺春迄は、牛肉料理として常磐線の業者を壓する程の安價と美味で即ち牛肉なら石川亭の定評である。

恒例 店員慰安大會 来る廿六日四倉於て 本社及び磐城中正新聞社、福總

大衆片々 現政府は失業率續出に頭を悩まして遂に公債發行に着手す...

遂に横領で訴らる 例の瀧澤俊平 新聞社の三社合同主催に係る平町各商店員の慰安海水浴大會は...

平町助役、選定難なり就任せんとするも余りの巧者に非ずと吾人は斷ず...

縁はイなるもの、味なものなれど、家風には合はざる嫁は獨り本元に還りたるものに過ぎず...



梅雨霽れて、水懸しの土用に入らんと思ひにや、再来の淋雨に苦しむ、惱みぬ陰鬱は更に人生をして、開かぬ底に陥らしむるか。

最近の平各方面のエロサ「ビス」のニュースは如何に去る日の有聲座の女給の映畫上映の時に。一大クエンを氣取つたステージの君子「イヤナ女給をサナリと廢めて、可愛い男と二人のクランか」は此の雨の晴れて同時に現實するかね。

△タヒラカフエーの辭子、○子なども「四十八」パーセントの味増汗顔で車上巡禮は頗る上出来だと言連の噂

△松の家的女將安兵衛宿も「ヤスベ」の評判だが抱妓の不統一には一驚の外はないね、アレでは無理もない、何にかさ、仲家の○○君、新川畔に毎日の御通動何にか御不快ですかと尋ね申すと、○○へ行くのよ、何んだ先の小清敷井竹庵の許へか

△三島家の新妓、八千代前住地は桐生どの事、機業地の本場丈に可なりを致します、レツテラは先代の八千代と菊千代との合併した、静なる事百合の精如きか、先づ實地踏査を必要とす、る鼻長アアンは一度は呼ぶ義務がある

△破産した○銀行支配人○君も、爾然紅燈の巷と縁を切り、濱の方面へ誤出張店を設け夏懸しの實演に移るとの由

△谷口からの新妓、勝太郎姐さんは東京は明神下の

講武所で活躍した誤一流の年増美人です、レントヤカの姿は必ず○性を○か、開散ヤルセなく、旗亭の爐邊に集る御茶引同志は「紫陽花や赤に化けたる雨上り」とは有名の子規の句だが、筆者の句は是れである、「雨續き御茶も續いて赤くなる」藝者緒も顔は青くなり、思想が赤く懐中無一物とは不景の「御茶」である、と打開策はないかね

△湖月の○○君、最近は大層の姐さんに御成りね、去る朝、山陰け〇亭でね「惜む後朝、細蚊帳の裾に夢の名残を拾ふ節」御樂しみ様でしたよ

△山形家のタ君、雨の午後辰巳方面の或る温泉宿に「タイサン」が御同伴迄は傑作でした、水も濡らさぬ二人の仲が何時か簾の目が洩れる、所謂御湯の仁義が水となるか

△玉川のKT姐さん、去る日或る場所、「戀も腐れも降る五月雨に今日もさめん、泣く女」とは御同情に堪えぬ、然し釣れ合ぬは不縁の基と御諦めが肝要第一でせうと

△藝者の特長と短所とを對照すると頗る面白い、是れは逃走性に富むもの、是れは恐らくは「紐」村の爲めだらう

△禮儀作法を心得む妓、是れは育ちも悪く主人も悪く、初対面では頗る優美高尚な印象を與へて呉れる、是れは凡てが大江戸の藝者氣質の傳統精神を失せぬものである

△何んとなく日本固有の女性美を發揮するものだ。

平 町 病 醫 院 案 内 (其 一)

<p><b>開院</b> (平町大町) 電話五〇二番</p> <p><b>難波醫院</b></p> <p>醫學博士 難波 睦</p> <p>(入院需に應ず、自炊便あり)</p>	<p><b>市原醫院</b></p> <p>平町田町 電話二四番</p> <p>内科、小兒科 市原卯太郎</p> <p>外科、一般婦人科 市原陸郎</p> <p>外科、梅毒、淋病 市原三三男</p> <p>(入院隨意)</p>	<p><b>矢吹醫院</b></p> <p>院長 矢吹大輔</p> <p>平古銀治町 電話二六六番</p> <p>内科、小兒科一般</p>	<p><b>大和田醫院</b></p> <p>醫學士 大和田軍司</p> <p>電話一七〇番</p> <p>耳鼻科 專門</p> <p>平南町</p> <p>(病室完備自炊の便あり)</p>	<p><b>醫院開業</b> (電話五五九番)</p> <p>門 專 婦人科 産科 花柳病科</p> <p>◎午後往診</p> <p><b>井坂醫院</b></p> <p>醫學士 院長 井坂久吉</p> <p>平町田町 (舊合津醫院跡)</p>
<p><b>開業廣告</b></p> <p>耳鼻咽喉科 專門</p> <p>氣管食道科</p> <p>平町南町 (元真木辯護士跡)</p> <p><b>増田醫院</b></p> <p>日本醫學士 増田 之</p> <p>電話四二八番</p> <p>(入院隨意)</p>	<p>内科、小兒科 一般</p> <p>花柳病科 (入院需應)</p> <p><b>藤沼醫院</b></p> <p>院長 藤沼平次郎</p> <p>平町紺屋町 電話五〇七番</p>	<p>外科 一般 整形 外科 産科、婦人科</p> <p>院長 木村寅次郎</p> <p>平新川町</p> <p><b>木村醫院</b></p> <p>電話一六四番</p>	<p>專門 内科一般</p> <p>住宅時間 (午前七時より午後十時迄 往診時間) 但し急患は此限に非ず</p> <p>平南町六五 (元大和田醫院跡)</p> <p><b>川井内科診療所</b></p> <p>醫學士 川井重之 女醫 川井安子</p> <p>電話一八一番</p>	<p>内科・小兒科一般</p> <p><b>大森醫院</b></p> <p>醫學士 大森 勇</p> <p>平南町 (電話二五八番)</p>
<p>平町田町 (電話五二三番)</p> <p><b>高久病院</b></p> <p>醫學士 高久 忠 新瀨醫學士 赤羽 清 藥劑士 佐竹 菊雄</p> <p>内科、小兒科、外科、花柳病科 耳鼻咽喉科、レントゲン科</p>	<p><b>磐城共濟病院</b></p> <p>院長 醫學博士 石山謙郎</p> <p>本院 主管 賀澤忠治</p> <p>電話六四一番</p>	<p>外科 一般 外科、内臓外科 入院隨意 (自炊の便あり)</p> <p>元赤心堂病院跡</p> <p><b>安齋外科醫院</b></p> <p>電話四七五番</p>	<p>産科・婦人科一般</p> <p><b>實川醫院</b></p> <p>醫學士 實川彌太郎</p> <p>平町田町 電話二七〇番</p>	<p>平南町</p> <p><b>松村醫院</b></p> <p>醫學士 松村鐵郎</p> <p>電話一〇七番</p>
<p>平町</p> <p><b>關内藥店</b></p> <p>電話四〇番</p>	<p>平町</p> <p><b>増尾木工所</b></p> <p>電話三四四番</p>	<p>平町二丁目</p> <p><b>小松崎洗張店</b></p> <p>電話三七九番</p>	<p>平南町</p> <p><b>平カフエー</b></p> <p>電話六二〇番</p>	<p>平南町五十六番地</p> <p><b>織田齒科醫院</b></p> <p>院主 織田豊太郎</p> <p>電話四一六番</p>

和銅鐵金物問屋

洋 久 電九九番

釜屋商店